シリーズ回想　化学学校OPCW指定ラボに　118

陸上自衛隊化学学校、OPCW指定ラボに

関東補給処副処長（前化学学校長）　陸将補　榑林　寿弘

令和6年9月25日、埼玉県さいたま市にある陸上自衛隊化学学校において、OPCW（Organisation for the Prohibition of Chemical Weapons／化学兵器禁止機関）指定ラボ（「指定ラボ」）の認証記念行事が開催されました。

本行事には、木原前防衛大臣をはじめ、OPCWラボ長のダニエル・ノート氏、佐藤参議院議員、神下陸上幕僚長、外務省・経済産業省・警察庁などの関係機関、関係自治体、大宮駐屯地協力諸団体など、部内外から多数の来賓をお迎えし、盛大に執り行われました。

また、この記念行事は各種メディアで広く報道され、多くの国民に知られることとなりました。一方で、「そもそもOPCW指定ラボとは何か」「化学学校が指定ラボとなることには、どのような意義があるのか」と疑問に思われた方も多いのではないでしょうか。

本稿においては、そうした疑問にお答えしつつ、OPCW指定ラボの認証を通じた陸上自衛隊のCBRN対処への取り組みについて、より深くご理解いただければ幸いです。

OPCWラボ長（左）から認証

指定ラボとは？

OPCWは、1997年4月29日に発効した化学兵器禁止条約（Chemical Weapons Convention）に基づき設立された国際機関です。同年5月に本部がオランダ・ハーグ市に設置され、以来、世界的な化学兵器の全面禁止と不拡散に向けた活動を行っています。2013年には、「化学兵器のない世界」を目指した広範な努力が評価され、ノーベル平和賞を受賞しました。

OPCWの組織は、締約国会議、執行理事会、技術事務局の3つで構成されています。このうち技術事務局は化学兵器禁止条約に基づき、化学兵器および生産施設の廃棄状況を「申告」と「査察」を通じて監視する役割を担っています。

また、毒性化学物質を扱う産業施設などに対しても検証を実施しています。設立以来、OPCWは8千回以上の査察を実施しており（24年12月現在）、現在、この技術事務局には陸上自衛隊の化学科職種の幹部1人が派遣されています。

OPCWは技術事務局と連携し、化学兵器の使用が疑われる地域で採取された土壌・水・金属片・生体試料などを分析・立証・報告する研究機関を「指定ラボ」として認定しています。

指定ラボが過去に扱った代表的な事例として、17年2月にマレーシア・クアラルンプール国際空港で金　正男氏が神経剤「VX」で毒殺された事件や、18年6月に英国南部ソールズベリーでロシアの元スパイ、セルゲイ・スクリパリ氏とその娘が神経剤「ノビチョク」で毒殺されかけた事件などがあります。

指定ラボ認証の意義とは？

指定ラボに認証されるためには、2つの要件があります。

1つ目は、年2回実施されるOPCWの技能試験（PT：Proficiency Test）を少なくとも年1回受験し、直近3回の試験で高評価（A～Fの5段階評価のうち、Aを3回、またはAを2回＋Bを1回）を得ること。

2つ目は、国際規格（ISO17025など）に従った管理システムを確立し、国際的な認定機関による有効な認定を受けることです。

化学学校は2018年からPTの受験を開始し、さまざまな困難を乗り越え、23年後期に連続3回の高評価（Aを3回）を獲得しました。

また、国際規格についても、部外コンサルタントの指導の下、業務を進め、24年3月にISO17025の認定を取得。こうして、指定ラボ認証に必要な2つの要件をクリアしました。

意義があるのでしょうか。

第1に、OPCWへの協力を通じた軍備管理・軍縮への取り組みにより、グローバルな安全保障環境のさらなる改善に貢献できる点が挙げられます。

例えば、前述のマレーシアや英国での事例のように、ある国で化学剤使用の疑いがある事案が発生したとします。OPCWが査察チームを現場に派遣し、そこで採取したサンプルの分析を化学学校の指定ラボに依頼し、それを化学学校が受けた場合、手順に従い分析を実施し、レポートを提出します。このレポートは、国際的な「お墨付き」を与えられた分析結果として活用されます。

なお、どの指定ラボが分析を担当したかは非公表となります。

第2に、化学兵器に関する最新の知見を習得し、国際的な地位を向上させることができます。

OPCW指定ラボに認証されることで、指定ラボのみに共有される各種情報を入手することが可能となります。科学技術が日々進歩する中、新たな化学兵器の出現や、それに対応する手段に関する情報を、OPCWや複数の指定ラボで構成されるラボグループから得ることができます。これにより、化学兵器対処に関する研究開発や教育訓練、さらには実際のオペレーションにおいて、受動的ではなく、より能動的に取り組むことが可能となります。

また、世界最高峰の指定ラボグループに参加すること自体が、ラボの分析能力の信頼性向上につながると言えます。

第3に、国際機関に指定されたラボとして、国際標準の化学剤分析能力を保持し、事態対処能力を向上させるとともに、事態発生時における情報発信を通じて、わが国の抑止力を強化することができます。

指定ラボに認証されるということは、非常に高い分析能力と結果の信頼性を持つラボであることを意味します。これは、指定ラボの厳格な認証要件を毎年クリアし続けなければならないことからも理解できるでしょう。

今後、国内外で化学兵器に関連する事態が発生した際、化学学校の分析結果は国際的に信頼性の高いものとして世界に発信され、場合によっては犯罪立証の証拠としても採用される可能性があります。これは、わが国に対する化学剤を使用した攻撃や犯罪の抑止に大きく貢献することを示唆しています。

最後に

1995年3月に発生した東京地下鉄サリン事件から、間もなく30年が経とうとしています。事件を通じて得られた多くの教訓を基に、化学科の諸先輩方が脈々とその対処能力を向上させてきました。この大きな節目に、OPCW指定ラボの認証という新たなステージに到達したことは、化学学校にとっても大きな意義を持つものと考えます。

しかし、指定ラボの認証に満足することなく、引き続きさまざまな課題を克服しながらラボの運営を進め、国民の期待に応え、信頼される化学学校、そして化学科職種を目指してまいります。

「筆者紹介」

榑林（くれはやし）　寿弘（としひろ）

・昭和42年生　北海道出身
・北海学園大学卒
・職種：化学科
・主要部隊歴等
H3年　陸上自衛隊入隊
H17年　陸幕装備部装備計画課
H20年　第7化学防護隊長
H24年　陸上幕僚監部運用部付出向（原子力規制委員会）
H26年　福島地方協力本部長
H28年　化学学校教育部長
H29年　中部方面後方支援隊長
R2年　北方総監部装備部長
R4年　化学学校長
R6年　関東補給処副処長

「自衛隊を動かすメジャーコマンド」⑨

航空自衛隊・航空教育集団

1　はじめに

航空自衛隊には、メジャーコマンド（MC）と呼ばれる骨幹組織が5つあり、そのうちの1つである航空教育集団はその名のとおり、航空自衛隊の教育全般を司る組織で、将来の航空自衛隊を担う有為な人材を育成する、いわば航空自衛隊の未来を創造する役割を務めています。

本稿においては、航空教育集団の概要および取り組みの一部をご紹介します。

2　航空教育集団の編成

航空教育集団は、各種教育の一貫性と総合的な教育管理態勢の整備を目的として、平成元年（1989年）に、飛行教育集団、術科教育本部および幹部候補生学校等の長官直轄部隊等を統合して設置されました。

現在、司令部を浜松基地におき、パイロット養成のための飛行教育や操縦適性検査などを行う6個の飛行教育部隊、入隊した新隊員に航空自衛官としての基本的な事項を教育する航空教育隊、航空自衛隊の教育訓練で使用する教材類の作成や修理を行う教材整備隊、航空自衛隊の幹部自衛官となる者を育成する幹部候補生学校および職務を行うために必要な技術的な教育訓練を行う4個の術科学校、合計13の編制部隊および機関で構成され、東北から九州にまたがるこれらの部隊や学校は、航空自衛官の教育と訓練を効果的に実施するために連携しています。

3　航空教育集団の任務と役割

航空教育集団の主な役割は次のとおりです。

●一般教育

航空自衛官として必要な基本的事項（基礎的な知識や技能を含む）を修得させるための教育を行います。

●飛行教育

パイロットを養成するための教育を行います。飛行訓練を通じて実践的な飛行技術を身につけさせます。

●術科教育

職務に必要な専門的な知識や技能を付与するための教育訓練を行います。

●戦技研究および展示飛行

基礎的な戦技の研究を行うとともに、航空自衛隊の存在を多くの人々に知ってもらうために、航空自衛隊のアクロバットチームである「ブルーインパルス」が航空祭や国民的な行事などで華麗なアクロバット飛行を披露しています。

ブルーインパルス

●教材類の造修

部隊等での教育訓練に必要な教材類の制作および修理を行っています。

4　航空教育集団の取り組み

航空教育集団では、いかなる最新鋭の装備品も、それを運用し、整備するのは人であり、人があってこその防衛力であるとして「人財育成」を指導方針とする航空教育集団司令官安藤忠司空将の下、航空自衛隊の教育と訓練の質を向上させ、優れた人材を育成するために、さまざまな取り組みを行っています。

●最新技術の導入

シミュレーターやXR（※）技術を活用した教育訓練プログラムを導入し、実践的かつ安全な環境での教育訓練を実現しています。これによりパイロットや整備士をはじめ、さまざまな隊員の技術向上を図っています。また、教育効率の向上のため、現在集合型で行っている教育の一部についてリモート化の導入を進めています。

●女性隊員教育の拡充

航空自衛隊の女性隊員に対する教育（上級空曹課程を除く）は、これまで防府南基地（山口県防府市）の航空教育隊第1教育群が担っていましたが、女性隊員数の増加などを見据え、令和6年度から、熊谷基地（埼玉県熊谷市）の航空教育隊第2教育群でも実施することとなり教育態勢および生活環境の改善策を講じています。

航空自衛隊では、平成27年に戦闘機パイロットも含め全ての職域で女性の制限を解除し、男女ともに全ての隊員が等しくやりがいを感じて働くことができる組織になっています。現在、自衛官全体の約11％に当たる5000人弱の女性自衛官が活躍し、航空自衛隊の任務遂行に寄与しております。また、平成30年には、女性初の戦闘機パイロットが誕生しています。

●外国委託教育

これまでの米国での飛行教育に加えて、令和4年1月からはイタリアにおける飛行教育を開始しました。その目的は、航空自衛隊におけるF-35操縦者の養成の効率化（高い訓練効果を得られるデジタル機材を搭載した練習機での訓練、F-35への円滑な機種転換）を図ることにあります。課程修了者は帰国後にF-35部隊に配属されます。また、この課程を通じて、空自と同一のアセット（F-35、KC-767）を運用するイタリア空軍との防衛協力関係の推進にも寄与するものです。

●サイバー運用員の教育開始

サイバー領域の状況監視およびサイバー攻撃等に対応するとともに、被害の局限や復旧等の対処を実施する要員を養成するため、令和5年1月から第4術科学校（熊谷基地）において、サイバー運用員の教育を開始しました。

5　能登半島地震における災害派遣

令和6年1月1日に発災した能登半島地震に対応し、全国の隷下部隊等から災害派遣に人員を差し出し、行方不明者の捜索、医療支援、給水支援および入浴支援などを実施しました。

浜松基地の警備犬ジェニファー号は、令和6年1月3日の人員捜索において、瓦礫の下から高齢女性を救助し、その内容はニュースで配信され、各種取材も受けました。

6　おわりに

わが国は戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に直面し、防衛力の抜本的強化に能を挙げ、実効的な抑止力および対処力をさらに強化すべく防衛整備、装備品の強化にあたっています。これらの実現は人がいなければ実現しません。人を育てる航空教育集団は、引き続き、航空自衛隊の教育と訓練の質を向上させ、優れた人材の育成にまい進して参ります。今後とも皆さまのご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

防府北基地に集う自衛官候補生

※XR（クロスリアリティ）技術とは、現実世界と仮想世界を融合させて、新しい体験を生み出す技術の総称

航空教育集団
司令部ウェブサイト

美佐の新国防論　167

米陸軍リクルート続報

キャベツの値段が高騰しています。都心のスーパーでは1～2人分の野菜を買うだけでかなりの出費となり、家族が多い場合はやりくりはとても大変だと思います。そうした中で「節約できるところは節約したい」と考えるのは自然な流れだと思います。

自衛隊の活動においても同様ですが、支出の中で意外に大きなウエイトを占めるのが「交通費」で、ここが軽減されれば、その分、消費活動への意欲が活性化するのではないかと経済には素人ながらいつも思います。

現在、自衛官のなり手を増やすための施策が検討されているところですが、私が個人的に感じているのは、自衛官やその家族の皆さんにとって「異動にかかる経費」が軽減されれば、大きな「魅力化」になるのではないか、ということです。

しかし、もしこれを国が主導して行おうとすれば「なぜ自衛隊を特別扱いするのか」と猛反発が起きることは必至ですので、民間鉄道会社などからそうした取り組みを率先して始めていただくことが理想です。

もちろん、自衛隊家族を優遇する理由は、異動の多さや、その際、家族との別居を余儀なくされる実情、いかなる時でも任務優先であり災害時などでも家族を置いて出て行く仕事であること…などであり、これらは自衛隊の特質を知ってもらうことは欠かせません。

諸外国では軍人への優遇制度は当然のようにあり、制服着用だと電車代が無料とか大幅割引などの事例を聞きます。軍人の「特別扱い」は世界の常識である一方、わが国では自衛隊を「特別扱い」しない、官民の公平性路線を崩せないという考え方が根強く、いくら自衛官の処遇改善や魅力化を進めようとしてもアクセルとブレーキを同時にかけているため、いつまでたっても大きな前進は困難です。

この状況を踏まえては、自衛隊を優遇したら株価が上がったとか利益が増えたなどの民間におけるインセンティブが働くことではないかという気がします（批判意見を浴びることへの覚悟も必要ですが…）。

さて、同じように募集難の中にある米軍は、体重制限の緩和などさまざまな施策でなんとか目標まで回復させたことはここでも述べました。

特に「未来の兵士準備コース」は、新兵に入隊の基礎訓練を満たすための身体的・学業的サポートを最大90日間提供するもので、プログラム開始以来2万8千人のコース参加者が無事に兵役に就いているといいます。

さらに米陸軍は努力を進め「リクルート360」というAIシステムによって、18歳以上で入隊を希望しそうな若者を抽出し、アプローチをかける方法を始めたといいます。現在はまだ5つの地域で運用を開始している段階ですが、将来的には陸軍全体で活用されそうだということです。

関係者は、最終的には人間が介在することは不可欠であるが、AIの機能を取り入れることで、手あたりしだいに電話をかけるなどの労力を削減することができ、かつ効果に直結すると評価しています。イギリス陸軍でも同じようにAIの導入により、募集活動において25％の省力化ができたとしています。

他にも米陸軍では募集専任准尉の育成を開始し、すでに第1期生が卒業し、現在は第2期生が訓練中だそうです。

また、2024年には志願者へのボーナス支給制度を期間限定で実施したり、友人を紹介する「兵士紹介プログラム」を実施したりしました。

この紹介制度によって16カ月間で7万5千件の紹介があり、5千人の新しい兵士の契約につながったといいます。

さらに下士官だけでなく将来の士官候補生への募集広報を強化するため約500人の初任期中尉を募集所に派遣し、これまではそれほど力を入れていなかった都市部の募集を強化するため、カリフォルニア州ロサンゼルスとジョージア州アトランタに1つ星将官を配置することになりました。

これに先立ち23年から募集司令部そのものが2つ星から3つ星将官をトップとする本部に再編されています。

日本よりもはるかに軍人の待遇が良い米国でもこれだけのことをしていると考えると、われわれは一層、努力しなければならないと改めて思い知らされています。

（執筆者プロフィール）
桜林　美佐（さくらばやし　みさ）
東京都生まれ。日本大学芸術学部卒。ディレクターなどとしてテレビ番組制作に携わった後、防衛問題研究家に。
著書に「奇跡の船『宗谷』」「海をひらく、知られざる掃海部隊」「誰も語らなかった防衛産業」（並木書房）、「終わらないラブレター祖父母たちが語る『もうひとつの戦争体験』」（PHP研究所）、「日本に自衛隊がいてよかった―自衛隊の東日本大震災」（産経新聞出版）、「ありがとう金剛丸―星になった小さな自衛隊員」（ワニブックス）、「武器輸出だけでは防衛産業は守れない」「自衛隊と防衛産業」「自衛官が語る　災害派遣の記録（監修）」「自衛官が語る　海外活動の記録（監修）」（並木書房）、「本音の自衛隊（産経NF文庫）」「危機迫る日本の防衛産業（産経NF文庫）」「軍産複合体（新潮新書）」など多数。

きずな

「見えない思い」

道東自衛隊家族会釧路地区会　会長　佐久間　恵

1月10日、陸上自衛隊釧路駐屯地では「はたちのつどい」が開催されました。

この行事では、二十歳の隊員による軽装甲機動車の牽引が実施されます。今年は6人が参加し、つながれた綱を引っ張りながら50㍍前進するという、毎年恒例のイベントが行われました。

先輩方に激励されながら、隊員たちは動いては止まり、また少し動いては止まり、なかなか進まない中、「応援が足りないんじゃないですか？」という進行役の声がかかり、大勢の先輩方が加勢して、大いに盛り上がりました。

その熱気で、一気に加速したかと思うと、またすぐに止まってしまう、という繰り返しの末、ようやくゴールに到達。拍手喝采が起こりました。

全力で奮闘する姿は実に見応えがあり、釧路駐屯地全体の一体感が感じられ、たいへん頼もしい思いで観覧させていただきました。

式典のため、昨年新築された光り輝く体育館へ移動し、宣誓の四字熟語が書かれた書き初めと、育てて

くれた家族への感謝や、新たな抱負を発表する姿も本当に立派で、きっと多くいらっしゃったご家族も、この場に参加できてどれほど感動的だっただろうかと、心から感じました。

その後、隊員食堂でボリューム満点のちらし寿司をおいしくいただきました。

来賓のごあいさつの中で「軽装甲機動車を引く姿、その一生懸命取り組む姿を見ると、『がんばれ！　がんばれ！』と、こぶしに力が入り、自然に声が出て、見ている自分までパワーをもらえる」とのお話があり、全くその通りだと深く感銘を受けました。

家族会活動に参加する中で、自分は役に立っているのかと時には疑問に思うこともありますが、実際に隊員たちの姿を見ると、応援したくなる気持ちが強くなります。日々、隊員たちは笑顔で接してくださり、会話も楽しく、わが子にも気をかけていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

釧路駐屯地の隊員をはじめ、帯広駐屯地の隊員、地方協力本部、また海上自衛隊や航空自衛隊の隊員の方々にも心から感謝申し上げます。

人員不足の中、それを解消するためにも家族会活動を通じて協力できることを熟慮すると、「家族が自衛官である」という立場から身近に見ているからこそ感じる良さをアピールしていきたいと考えています。実際にはとても働きやすい環境であり、福利厚生の充実や個人が尊重されている点など、積極的に広げていきたいです。

また、わが子はもちろんのこと、自衛官の方たちには厳しい任務遂行が求められる場面でも挑戦と達成を繰り返し、凛々しく勇敢な面持ちで、充実した人生を送っていただきたいと心から願っています。

自衛隊家族会を始め、協力団体の方々は、そのような思いで自衛隊員を応援し続けているのだと、改めて感じた一日でした。